

～適期の刈り取りで収量・品質を確保～

1 8月20日現在の生育状況 ～穂数多く、一穂粒数少ない～

表 1 水稻定点調査結果（8月20日）

品 種	設置場所	8月20日（穂揃い期）			
		穂数 本/m ²	葉数 葉	着粒数	
				粒/穂	粒/m ²
あきたこまち	A	527	13.1	70.0	36,883
	B	686	12.5	68.1	46,741
	C	525	12.5	55.1	28,950
	D	515	12.2	63.5	32,710
	E	486	12.5	70.0	34,026
	本 年	548	12.6	65.3	35,862
	平 年	474	12.8	67.9	32,091
	平年比(%±)	116%	-0.2	96%	112%

- 管内の出穂期（管内全域の出穂盛期）は、平年より1日遅い8月5日となりました。
- 穂数は、平年比116%と多くなりました（特に、Bほ場では極めて多くなりましたが、その他の4地点もまた平年を上回っています）。
- 一穂粒数は、7月の日照時間が平年に比べて少なく経過したこと、また、穂数が多いことにより、平年比96%と少なくなりました。
- m²当たり粒数（m²当たり穂数×一穂着粒数）は、穂数が多いことから、平年並以上に確保されています。
- 7月中の連続した降雨により中干しが不十分となり、田面が軟らかいほ場が散見されます。草丈（稈長）が長く、田面が軟らかいほ場では、倒伏が懸念されることから、今後は落水により田面を固くしましょう。

2 穂いもち防除について

- 管内の葉いもちの発生程度は平年並と見られますが、一部ほ場では、穂いもちの発生が散見されます。
- 葉いもちが多発しているほ場や、その周辺ほ場では、穂いもちの発生・拡大を防ぐために、穂揃期の防除に加えて、傾穂期に追加防除を実施します。傾穂期以降の穂いも

ち防除には、ラブサイド剤を使用することとし、最終防除時期は出穂後 25 日頃までとします。

3 斑点米カメムシ類防除～収穫 2 週間前まで畦畔・農道の草刈り禁止～

- 斑点米カメムシ類を効率よく防除する対策として、草刈禁止期間を設けています。収穫 2 週間前までは草刈りを行わないようにしてください。
- 特に、ヒエなどの水田内雑草が多いほ場や休耕田などの雑草地が隣接しているほ場などでは出穂後 10 日頃の防除だけでは斑点米の被害を防ぐことができませんので、2 回目防除として、出穂後 24 日頃に追加防除を行う必要があります。
- 上記のような条件のほ場で 2 回目防除を実施していないほ場では、直ちにキラップ剤（収穫 14 日前まで）による防除を実施してください。

4 刈り取り ～適期の刈り取りで品質低下防止～

刈取適期の判断基準

- ①出穂後の日数
早生品種で 45 日前後、中晩生品種で 50 日頃
- ②籾の熟色
葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が 90%（黄色＋黄白色の割合）の頃
- ③枝梗の黄化程度
穂の主軸の上から 5 番目までの枝梗が黄化した頃
- ④出穂後の積算気温：出穂期翌日から日平均気温を積算した値（表 2 参照）
早生品種（あきたこまち等）・・・950～1,050℃
中晩生品種（めんこいな等）・・・1,050～1,150℃

表2 出穂後の積算気温による到達日予想

出穂期	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃
	早生品種「あきたこまち」等				
				中晩生品種「めんこいな」等	
8月2日	9月15日	9月17日	9月20日		
8月5日	9月19日	9月22日	9月25日	9月28日	10月1日
8月8日	9月23日	9月26日	9月29日	10月3日	10月6日
8月11日	9月27日	10月1日	10月4日	10月8日	10月12日

8月23日までは実況値、8月24日以降は平年値で計算

- 本年の出穂盛期の 8 月 5 日出穂のあきたこまちでは、9 月 19 日～25 日頃が積算気温から推測した刈り取りの目安となります。
- 籾の熟色や枝梗の黄化程度を観察し、刈り取り適期を見極めてください。